令和元年度　学 校 評 価 自 己 評 価 表　（ 中間 ・ 最終 ）

東広島市立西条小学校

学校教育目標	人間性豊かで　創造性に富み　たくましく生きる子どもを育成する	『一人一人が　輝く』 ～　子供のやる気に火をつけ　光をあてる　～ 【めざす学校像】『独創教育』の理念を基に，工夫・追求・徹底・協働によって新たな価値を創造する学校 【めざす児童像】何事も自ら進んで「正しく　強く　優しく　永く」やろうとする子ども 【めざす教師像】笑顔で寄り添い，子どもの心に共感する教職員

	評価計画					自己評価					学校関係者評価				改善方策
	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標値	10月 達成値	2月 達成値	達成度	評価	結果と課題の分析（○成果▲課題）	評価 適正	評価 不適正	評価 分からない	コメント	
主体的に学ぶ	やる気に満ち，自ら進んで学ぶことで，学ぶ楽しさを味わい，資質・能力を高めていく児童の姿	「本気の学び」「深い学び」の実現に向けた指導の工夫を追求し，資質・能力を高める	・研究成果を類型化することで汎用性を高め，日常の授業改善につなげる。	・ＣＲＴの達成度（活用）	低75% 中70% 高70%	―	14項目 /16項目	88%	B	○CRTの結果から，各教科等の味方・考え方を働かせる指導の工夫を類型化したことにより，日常の授業が改善され，児童の学力を高めることが概ねできたと考える。 ▲どの教科も，「思考力・判断力」よりも「表現力」に課題がある。思考したことを明確に表現する力（特に書く力）を高める取組を行う必要がある。				・CRTの結果，全国学力・学習状況調査の結果から見て，学校の取組の成果は十分に表れており，Aにすべきである。 ・目標設定の仕方を再検討すべきだ。	・類型化した指導の工夫を，日常的に活用し，日常の授業改善をさらに進める。 ・思考したことを明確に表現する力を高めるため，授業で説明を書く活動を位置づけるなどの取組を進める。 ・個別指導を充実させる取組を引き続き進める。 ・CRTの結果の分析から，学び直しを行い，再度同じ問題に取り組ませて評価するなど，目標設定や評価方法の仕方を検討する。
		本が好きになり，進んで読書を行う意欲や態度を育てる	・家庭での読書や親子読書を推奨する。 ・委員会活動を活性化する。	・友達に薦めたい本がある ・わが子は家庭で読書をしている	児童評価 95% 保護者評価 70%	81% ―	87% 72%	92% 103%	B A	○読書の幅を広げるため，国語科の言語活動の充実を図ったり，読書ボランティアによる読み聞かせを定期的に行ったりした。また，図書委員会が様々なイベントを開き，児童の読書活動の活性化を図った。これらの取組により，読書に親しむ児童が増えた。 ○家庭で読書をする機会を増やすよう，親子読書を推奨したり，週末の家庭学習の一つとして読書を位置づけたりした。これにより，家庭で読書をする児童が増えた。 ▲目標を達成したとはいえ，家庭で読書をする児童の数は十分とはいえない。本年度の取組を来年度も継続していく必要がある。				・読書は，児童の学力の基礎体力となるものであり，読書指導は重要である。 ・家庭との協力が不可欠と思われるので，保護者への働きかけや啓発の仕方の工夫を考えてはどうか。	・本年度の取組がさらに効果的なものとなるよう，取組の質を高めていく。 ・読書ボランティアと連携するなどして，保護者への働きかけを工夫する。
ふるさとを愛する	西条小・西条町に誇りと愛着をもつ児童の姿	生活科・総合的な学習の時間の系統的な学びを推進する	・開発単元における体験活動の工夫・充実を図り，学校や地域の人・伝統・文化の素晴らしさを実感させる。	・学校大好き ・西条への愛着	肯定的 回答率 95% 肯定的 回答率 95%	93% 98%	96% 98%	103% 100%	A A	○昨年度までの生活科・総合的な学習の時間の系統的な学びを，さらに進化させ，新たな視点で各単元を再構成して実施したことで，児童が学校や地域の人・伝統・文化のすばらしさを実感することができた。 ▲児童が地域の人・伝統・文化とより深くかかわれるよう，体験活動をさらに重視して単元構成の工夫を行う。				・「独創教育」そのものがこの取組にある。 ・児童一人一人が視覚的にも聴覚的にも，体感覚的にも，体験させている成果が，オペラ「白壁の街」で出ている。	・児童が地域の人・伝統・文化とより深くかかわれるよう，体験活動をさらに充実させ，単元構成の工夫を行う。
教育課程を社会に開く	学校の教育目標や経営理念，目指す子供像を教職員・児童・家庭・地域で共有し，協働して教育を推進する姿	校訓に込められた価値と児童が輝いている姿のイメージ（目指す姿）を共有する	・自分の得意，良さ，夢中になれることや自身の成長を実感させる。 ・自分の学びたいことに浸る「鐘なし日」を実施する。 ・学習活動（ねらい・内容）やエピソード等を積極的に伝える。	・「校訓の価値」「輝く」のイメージに対する達成度	児童評価 95% 児童・教職員・保護者による各評価の差 20%以内	93% ―	97% 児童97% 教職員 98% 保護者 96%	102% 100%	A A	○３年生以上で，10月・12月の２回，「鐘なし日」を実施した。昨年度の課題を基に，計画と振り返りに重点を置いて指導した。これにより，児童の活動の質が向上するとともに，次の活動につながる振り返りができるようになってきた。 ○教職員で「輝く」イメージを話し合うとともに，各学級でも「輝く」イメージを話し合い，それぞれの話合いで出された「輝く姿」を職員室や教室に掲示し，目標設定や振り返りに活用した。また，学校通信や学年通信，HP等で，学習活動やエピソード等を保護者に積極的に伝えた。９月のPTA教育講演会では，本校教諭による模擬授業や講演を通して，本校の目指す授業を保護者に紹介した。これらの取組を通して，児童・教職員・保護者で校訓や輝いてる姿のイメージを共有することができ，同じ児童の姿を目指して，目標を設定したり，活動を振り返ったりすることができた。				・日頃から，具体的にイメージを児童も教職員も保護者も共有できている効果の表れだと思う。 ・エピソードをもっと紹介してほしい。	・引き続き，目指す児童の姿を共有するよう，輝く児童の姿のエピソードを，保護者や地域にさらに発信していく。

A･･･100≦（目標達成）　B･･･80≦（ほぼ達成）　C･･･60≦（もう少し）　D･･･60＞（できていない）　達成度＝達成値／目標値